

1 学校教育目標

<教育理念>

地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり ～飛翔～

<教育方針>

6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生きる力を育み、誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る。

<6つの特色ある教育活動「飛翔プロジェクト」>

- 1 大学・地域連携＝コミュニティ・スクール導入による大学や地域との連携
- 2 人間教育＝生徒会活動・部活動等による豊かな人間性と主体性の育成
- 3 学力育成＝6年一貫の効果的な教育課程による学力育成と進路実現
- 4 国際教育＝国際教育と語学教育の充実によるグローバル人材の育成
- 5 サイエンス教育＝理数教育や講演会等の充実による理系人材の育成
- 6 総合学「海峡学」＝キャリア教育と探究活動による主体的学習者の育成

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

(1) 確かな学力の保証

- 学力面のデータ分析に取り組み、昨年度から少しずつ学力は向上してきている。一層学力向上に取り組みたい。
- 6年間の系統的な教科指導體制の推進
 - ・月1回の教科研修会と一人一研究授業によって、教科指導力の充実に取り組んでいる。
 - 系統的な指導について教員の共通理解が進んだが、まだ十分とはいえない。
 - 教育課程のさらなる改善
 - ・新大学入試に対応するため、前期課程の授業時数、後期課程の科目選択について改正を行った。
 - ・新教育課程について研究を始める必要がある。
 - アクティブ・ラーニングによる主体的・協働的な学びの推進
 - ・全教科でアクティブ・ラーニングの研究授業を実施し、研究協議を繰り返すなど、具体的な取組を進めているところであり、その成果を実践事例集にまとめている。
 - ステップアップノートなど予習、授業、復習の徹底による学習習慣の確立
 - ・学校評価アンケートの「毎日十分な家庭学習をしている」という質問への肯定的評価は、生徒61%、保護者50%、教員35%であった。
 - より一層の取組が必要である。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 大学や地元企業と連携しながら、生徒が明確な将来像を描く取組を昨年度から本格的に始めた。さらに充実を図りたい。
- 生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実
 - ・科目選択に関する説明会を2回生以上の各学年で複数回実施し、生徒一人ひとりに応じた科目選択指導を行っている。
 - ・各学年で、生徒一人ひとりの進路について検討会を実施し、きめ細やかな指導に努めている。
 - 総合的な学習の時間「海峡学」などによる明確な進路意識を醸成するキャリア教育の推進
 - ・前期課程で、市内の企業や山口大学・下関市立大学を訪問し、進路意識を高めている。
 - ・後期課程で、山口大学・山口県立大学・山口東京理科大学・下関市立大学等をゼミ訪問し卒業研究の指導を受け大きな成果をあげている。
 - 進学実績の向上
 - ・きめ細やかな指導を行うことで、国公立大学に3割弱、4年生私立大学に6割を超える生徒が合格した。
 - ・前期課程での国公立大等上級学校のガイダンスが必要である。
 - 新たな大学入学者選抜制度に対応した教育内容の充実
 - ・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み成果をあげている。
 - ・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされた。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成

- 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。
- 豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり
 - ・学校行事や学年行事で、生徒が主体となる活動の場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めている。
 - ・三菱重工業株式会社下関造船所、レノファ山口、日本銀行下関支店からトップを招き、PTA主催のキャリア講演会を年3回実施した。
 - 国際交流活動や留学の推進
 - ・「東アジア(韓国・中国)文化入門」や、海外派遣事業、アメリカ・韓国・中国からの学校訪問受入を積極的に行っており、国際交流に対する意識が高まっている。
 - 生徒会・学校行事等におけるリトル・ティーチャー制の推進
 - ・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができ
 - ・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができている。
 - ボランティア活動の推進
 - ・ひこっとランド海岸清掃ボランティア・熊本地震義援募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加したが、一層の充実が求められる。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組み必要がある。
- 危機管理体制の改善・充実
 - ・生徒指導や危機管理体制については、学校安全防災計画、いじめ防止基本方針等に従い、充実した体制で取り組むことができている。
 - 計画的な研修による教職員の資質向上
 - ・生徒指導委員会、道徳・人権教育推進委員会、教育相談・特別支援連絡委員会、性教育推進委員会については、計画的に実施している。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 志願倍率が1.5倍に増加するとともに、辞退者が大きく減少した。
- 学校説明会の充実
 - ・本校の教育活動をわかりやすく伝えるために、本校の教育活動全体を「飛翔プロジェクト」と名付け、広報活動に努めている。
 - ・学校行事等で学校説明会に来校できなかった児童の小学校や塾等に本校職員が出向き、児童・保護者対象の説明会を実施した。
 - 学校HP・マスメディア等を活用した情報発信の充実
 - ・学校HPを刷新し、頻繁に更新をすることで、昨年度1万5千回だった閲覧回数が今年度は1月末で3万回を超えた。
 - おいのやまサイエンスセミナー、小学生英会話教室の充実
 - ・児童に対して周知を徹底する等の取り組みをしたが、おいのやまサイエンスセミナーに200人、小学生英会話教室に14人の、例年どおりの来校者数であった。一層の取組充実を図りたい。

3 本年度重点目標	
<p>「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて、地域や大学との連携を深めながら、中高一貫校ならではの教育活動の充実に努める。</p>	
<p>(1) 確かな学力の保証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次期学習指導要領に基づいた教育課程の編成を完成させる。 ○各学年で朝学を取組を充実させるとともに、授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。 ○世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。 ○寮のWeb環境の整備を行い、寮での自学自習を充実させる。 	
<p>(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。 ○各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。 ○昨年度整理した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。 	
<p>(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。 ○人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。 ○生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。 ○留学に関する校内の規定を整理し、短期留学を含めた留学を促進する。 	
<p>(4) 組織としての課題解決力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。 ○生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、教職員の指導力の一層の向上を図る。 ○校務分掌業務を精選し、業務の改善を図ることで、組織全体の活性化を図る。 	
<p>(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実に努める。 ○小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実に努める。 	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	迅速・円滑なホームページの更新	年間更新計画に基づき、迅速・円滑に更新を実施する。	4 計画に基づき、迅速・円滑に更新を実施した。 3 計画に基づき、おおむね迅速・円滑に更新を実施した。 2 計画に基づいた更新をほとんど実施できなかった。 1 計画に基づいた更新を全く実施できなかった。	4	○ 計画的・定期的に更新し、更新回数は60回を超え、閲覧回数は4万回近くになった。	ホームページが充実し、閲覧回数も大きく伸びている。	A
	読書指導の充実	「中等40選」を選定し、生徒一人5冊以上の読書と読書シートの提出を促す。	4 読書習慣が身に付いた生徒が70%以上であった。 3 読書習慣が身に付いた生徒が50%以上であった。 2 読書習慣が身に付いた生徒が30%以上であった。 1 読書習慣が身に付いた生徒が30%未満であった。	2	○ 「中等40選」・大学ゼミ訪問での卒業研究・朝の読書等の取り組みにより、読書指導の充実に取り組んだ。 ○ 読書習慣が身に付いていると思っ ている生徒は43%であり、引き続 き、読書指導の充実を図りたい。	読書指導が生徒の読書習慣につながるよう、引き続き工夫・充実を図ってもらいたい。	B
教務	学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成	新教育課程検討チームやプロジェクト委員会にて、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた科目選択ができるよう、新教育課程の検討を行う。	4 新教育課程検討チーム等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選を十分に図った。 3 新教育課程検討チーム等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選をほぼ図った。 2 新教育課程検討チーム等で検討したが、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選が図れなかった。 1 新教育課程検討チーム等での検討を1回も行わなかった。	3	○ 教育課程検討委員会を開催し、大学入試を意識しながら、前期課程・後期課程の授業時数の適切な教科配分等を考慮し、教育課程の改善を図った。 ○ 次期教育課程についても、国の動向を確認しながら引き続き検討していく。	中高一貫校の利点を生かすとともに、生徒の実態に応じた教育課程が編成されている。次期学習指導要領に対応した教育課程を引き続き検討してもらいたい。	B
	生徒・保護者に向けた科目選択指導・説明の充実	各科目の特徴や大学の入試科目を理解してもらい、将来を見据えた科目選択につなげていく。	4 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で年8回以上行った。 3 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で年6回以上行った。 2 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で年4回以上行った。 1 科目選択に関する指導や説明会を、ほとんど行えなかった。	4	○ 希望進路実現に向けた指導の充実のために、科目選択ガイダンスを8回行った。また、チューターの協力を得ながら個に応じた科目選択指導を行った。 ○ 2・3回生の保護者対象の説明会は、例年より3か月時期を早めて行い、科目選択について家庭でより充実した話し合いが行われるように配慮した。	教員によるきめ細かな指導が行われている。今後も生徒一人ひとりに応じた科目選択指導ができるとうよい。	A
	朝学やステップアップノートなど学力向上の更なる取組の推進	朝学やステップアップノートへの取組をはじめとして、日々の学習活動を進める中で学力向上を図る。	4 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1.5ポイント以上向上した。 3 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1ポイント以上向上した。 2 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してほとんど変化しなかった。 1 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してマイナスとなった。	4	○ 左記テストの全学年の偏差値平均値は1.82ポイントの向上が見られた。 ○ 学力向上に向けて、質の高い授業の提供、課外授業や各学年における朝学等の取組の充実に努めた。 ○ 学力向上推進委員会を年間3回開催し、現状の把握に努めるとともに、模試分析等を通して、各単元や分野の自己評価を行い、日常の教科指導に生かした。	学力向上に向けた取組の充実が、特に前期課程生徒の学力向上に結び付いている。	A
	英語教育の充実	外国語科と協力し、英語検定合格者の向上に向けた課外授業や英会話授業を実施する。	4 英語検定対策課外や英会話授業を実施し、1次試験合格者を前年度と比べ2割向上させた。 3 英語検定対策課外や英会話授業を実施し、1次試験合格者を前年度と比べ1割向上させた。 2 英語検定対策課外や英会話授業を実施したが、1次試験合格率は前年度と比べほとんど変化がなかった。 1 英語検定対策課外や英会話授業を実施したが、1次試験合格率は前年度と比べ下がった。	2	○ 英語検定の各級の1次試験合格率平均値は、60.4%であり、前年度と比べ2ポイントの向上が見られた。	6年間の系統的・計画的な英語教育の充実について、外部検定試験の活用も含めて今後一層検討していく必要がある。	B

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒指導	生徒会活動・学校行事におけるリトル・ティーチャー制の推進	生徒会活動、学校行事等で、リトル・ティーチャー制を取り入れ、上級生から下級生への仕事の指導や計画的な引き継ぎにより、学校行事や生徒会活動などを活性化させる。	4 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が80%以上である。	4	○ 全生徒の86%が上級生が下級生に親切に仕事を教えているという認識があり、1回生は96%、2回生は90%という高い割合になっている。 ○ 野球応援や生徒会主体のリーダー研修会、専門委員会における縦割り班の活動などさらに先輩から後輩へ色々な仕事を引き継ぎ、中高一貫の良さをさらに伸ばし、生徒会活動・学校行事の活性化をめざしている。	生徒会活動が充実している。生徒が主体的に取り組めるよう学校行事の一層の活性化をお願いしたい。	A
			3 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%未満である。				
	ボランティア活動の活性化	校内や校外でのボランティア活動など、地域に目を向けた活動を計画・実施する。	4 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が80%以上である。	3	○ 全生徒の79%がボランティア活動が盛んだという認識がある。 ○ 歳末たすけあい募金活動・収集ボランティア・トイレ掃除ボランティアなど生徒会主体で活動した。生徒主体となる自主的な企画が一層出てくるとよい。 ○ 本年度、ひこっとランド海岸清掃ボランティアは、参加希望者が100名を超えていたが、台風接近により中止となった。	ボランティア活動に熱心に取り組んでいる。地域と連携したボランティア活動についても積極的に取り組んでもらいたい。	B
			3 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%未満である。				
	挨拶を含む生徒のマナー・規範意識の向上	交通安全指導、あいさつ運動を通して、ルールからマナー・エチケットへと意識改革を図るとともに、情報モラルや薬物乱用防止の講演会を計画・実施する。	4 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が80%以上である。	4	○ 生徒・保護者共に97%という高い割合で、校則を守っているという認識がある。 ○ 生徒会執行部、生活委員会が中心となって、朝の挨拶運動を行っている。生徒会執行部は月・水・金の週3回、生活委員会は火・木の週2回昇降口前に立って挨拶を行った。 ○ 本年度、生活委員会が11月上旬に「マナーアップ週間」を行った。	生徒が高い規範意識をもっている。校則を守っているという認識が100%となるよう今後も指導をお願いしたい。	A
			3 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%未満である。				
部活動における適正な休養日の確保	適正な休養日がとれるようにルールを校内で作成し、各活動で周知し、運営する。	4 適正な休養日がとれるようにルールを校内で作成し、校内で教師・生徒・保護者へ周知し、どの部も練習計画を確実に運営できた。	3	○ 本年度、部活動において、適正な休養日がとれるように、各部任せでなく、全校体制でルールを作り、活動状況一覧表にまとめた。 ○ 各部で練習計画を立て、生徒に周知し、計画書を配付し、学校に提出した。	休養日に関するルールについて、適切に設定されている。今後も引き続き、活動の工夫・充実をお願いしたい。	B	
		3 適正な休養日がとれるようにルールを校内で作成し、校内で教師・生徒・保護者へ通知し、各部で練習計画を立て運営した。					
		2 適正な休養日がとれるようにルールを校内で作成し、各部で周知し、活動した。					
		1 これまでどおり、各部で休養日を取り、運営した。					
進路指導課	新たな総合的な学習「海峡学」による明確な進路意識を醸成するキャリア教育・高大連携の推進	海峡学において、大学訪問、ゼミ訪問を継続的に実施し校内発表会をおこなう。また、その後の探究講座の充実を図る。	4 80%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。	4	○ 年4回のキャリア講演会、5回生海峡学での大学等ゼミ訪問および表彰を伴う校内発表会、2・3回生では、下関市立大学、山口大学、企業訪問を実施した。 ○ 1回生から6回生まで合わせて82%の生徒がキャリア意識の向上を肯定的に感じており、非常に成果が上がった。	大学等ゼミ訪問をはじめ、海峡学における工夫した取組が生徒の進路意識の高揚に結び付いている。	A
			3 50%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			2 40%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			1 生徒のキャリア意識の向上は十分に認められなかった。				
	進学実績の向上	模試の成績状況を継続的に提供し、各回生での進路検討会を実施する。	4 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を年3回以上実施できた。	2	○ 模試成績状況等の資料提供を複数回行い、各学年、最低1回以上進路検討会が実施された。 ○ 各学年の上位層を把握し、駿台ハイレベル模試の受験を促進した。また、2回生では、新たに、上位層を中心とした課外授業を開始した。	生徒の希望と学力の状況について、定期的に検証しながら進路指導の充実を図ってもらいたい。	B
			3 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を年2回以上実施できた。				
			2 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を年1回実施できた。				
			1 模試成績資料を複数回提供するに至らず、各回生での進路検討会も実施できなかった。				
	生徒の個性や創造性を伸ばすきめ細やかな指導の充実	小論文指導、面接指導の充実など積極的に支援を行う。	4 小論文指導、集団討論・面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率4割を超えた。	4	○ 早期（7月～）の小論文指導・集団討論の練習が行われ、指導の充実を図ることができた。 ○ A〇・推薦入試の国公立合格者は、A〇入試が5名、推薦入試が16名を数えた。	計画的に小論文指導や面接指導、集団討論指導が行われており、大学受験に向けて効果的な取組となっている。	A
			3 小論文指導、集団討論・面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率3割を超えた。				
			2 小論文指導ないしは、集団討論・面接指導の充実が図れた。				
			1 小論文指導の充実も、集団討論・面接指導の充実も図れなかった。				
保健体育課	体育大会等学校行事におけるリトル・ティーチャー制の推進	各種委員会活動等を活用してリーダーを育成し、企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主的活動を推進し、内容のレベルアップを図る。	4 リトル・ティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が85%以上であった。	4	○ 5・6回生が協力して体育大会を牽引する実行委員会のスタイルが、2年目となり定着した。委員を中心に全校生徒が協力し、充実した成果を上げることができた。 ○ 2～4回生がリーダーとして活躍できる場面を増やし、リトル・ティーチャー制の良さをさらに活用していきたい。	体育大会等の学校行事が充実している。今後も引き続き、生徒の主体的な活動を推進してもらいたい。	A
			3 リトル・ティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が65%以上であった。				
			2 リトル・ティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が45%以上であった。				
			1 リトル・ティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が25%以上であった。				
	バランスのとれた食生活への意識の向上と行動化の推進	食に関する取組の2年次とし、食のバランスの向上へ向け、生徒委員会活動、保健だより、学校保健安全委員会等の取組を通して、行動変容を促す。	4 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が85%以上であった。	3	○ 食についての講演会で、食行動の在り方の指導を受けたことから、朝食欠食者が減少してきた。 ○ 保健だより、掲示板、ホームページなどを運動させて、情報啓発の充実を図りたい。	食に関する指導が適切になされている。家庭との連携を一層充実させ、家庭を巻き込んだ取組を推進してもらいたい。	B
			3 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が65%以上であった。				
			2 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が45%以上であった。				
			1 学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が45%未満であった。				
	清掃・環境美化活動に対する意識の向上と主体的な行動化の推進	見つけ掃除への積極的な取組を通じて日常の美化意識や主体的な行動意欲を高め、清掃活動の活性化を図る。	4 校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が85%以上であった。	3	○ 生徒及び教職員の肯定的な評価は65%、保護者の評価は85%であった。 ○ 見つけ掃除の浸透や、掃除道具の扱い方の向上等、生徒の意識向上は全体としてみられたが、日常生活での環境美化の意識向上については、トイレ使用等まだまだ向上できる余地があり、今後の課題といえる。	環境美化に努めているが、普段の見つけ掃除の実践を更に推進してもらいたい。	B
			3 校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が65%以上であった。				
			2 校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が45%以上であった。				
			1 校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が45%未満であった。				

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
寮務課	リトル・ティーチャー制による寮生活の充実	寮におけるリトル・ティーチャー制により、集団生活に必要な規律を身につけさせ、円滑な寮生活を送ることができるようにする。	4 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させ、寮生が十分に充実した集団生活を送ることができた。 3 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させ、寮生がおおむね充実した集団生活を送ることができた。 2 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させたが、寮生が充実した集団生活を送るまでには至らなかった。 1 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させることができず、寮生が充実した集団生活を送ることもできなかった。	3	○ 寮長選挙の公約を実現し、起床時間を30分早め「朝活」を実施したり、朝食に遅れないように態勢を作ったりするなど、集団生活が充実するよう取り組みができた。	寮生に対するきめ細かな指導がなされている。今後も円滑な寮生活を送ることができるよう、取組の工夫・充実をお願いしたい。	B
	インターネット環境の整備による学習環境の充実	寮生に対してきめ細やかな学習指導を行い、学力を向上させる方策の一環として、タブレット型の教材が利用できるように環境を整える。	4 We b環境が十分に整備され、大いに学習意欲が向上した。 3 We b環境が整備され、おおむね学習意欲が向上した。 2 We b環境が整備されたものの、学習意欲の向上にはつながらなかった。 1 We b環境が整備されなかった。	3	○ Wi-Fiの導入によりWe b環境が整備され、タブレット型の教材を利用し定期テスト対策をするなど、学習意欲の向上につながった。	We b環境の整備が、生徒の学習意欲の向上につながっている。今後も引き続き、寮生の学力向上に努めてほしい。	B
中等教育学校推進課	校内研修・研究授業の充実	一人一研究授業の実施することを通して、主体的・協働的で深い学びを表現できる研究環境づくりを推進する。	4 90%以上の教員が一人一研究授業を実施する。 3 70%以上の教員が一人一研究授業を実施する。 2 50%以上の教員が一人一研究授業を実施する。 1 50%未満の教員が一人一研究授業を実施する。	3	○ 県主催のアクティブ・ラーニング研修会に、多数の教員が参加するなど、教員の研修意識は高まっている。 ○ 今後も引き続き、研修体制作りが重要である。	全教員が一人一研究授業を実践し、授業力・指導力の向上に努めてほしい。	B
	国際交流活動や留学・海外研修によるグローバル人材の育成	総合的な学習の時間（東アジア文化入門）、海外派遣事業、諸外国からの学校訪問受入等を積極的に行う中で、国際交流のリーダーとなる生徒を育てる。	4 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の90%以上が肯定的であった。 3 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の70%以上が肯定的であった。 2 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%以上が肯定的であった。 1 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%未満が肯定的であった。	4	○ 国際交流に関する肯定的な回答は、生徒が92%、保護者が81%であり、昨年度よりも改善されている。 ○ 今後は、国際交流活動や留学・海外研修によるグローバル人材の育成に関するニュースレターを配布するなど、生徒・保護者への周知や体験のシェアリングを行うことが課題である。	海外姉妹校への訪問、留学説明会やイングリッシュ・キャンプの実施など、国際交流に係る取組が一層充実してきている。	A
	NIEの組織的な推進	NIE活動を学習活動や生徒会活動に位置づけ、学校全体で新聞活用を行える環境をつくる。	4 90%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。 3 70%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。 2 50%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。 1 50%未満の教員が新聞を活用した指導を実施する。	3	○ 道徳や学活、総合的な学習も含むほぼ全ての教科をはじめ、進路指導、生徒会活動など学習活動のあらゆる場面で新聞の活用が広がりとつある。	新聞の活用については、場面を工夫しながら、全校体制で推進していく必要がある。	B

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
1 回生	学習指導	主體的な学習習慣を確立と、基礎学力の定着	課題の提出を確実にする。	4 期限を守って提出した生徒が90%以上であった。	3	○ 考查に合わせた課題の提出期限を設定し、教科ごとにとりまとめた。 ○ 未提出者に対して、遅れても提出させるように徹底することで、期限を守って提出できる生徒が多くなってきており、指導を続けていきたい。	生徒は熱心に学習に取り組んでいると感じられる。	B
				3 期限を守って提出した生徒が80%以上であった。				
				2 期限を守って提出した生徒が70%以上であった。				
				1 期限を守って提出した生徒が70%未満であった。				
生活指導	豊かな人間性と望ましい集団の育成	人間関係づくりのためにソーシャルスキルトレーニングを取り入れるとともに、協力して学年活動をする場を設定する。	4 ソーシャルスキルトレーニングを年間10回以上かつ生徒による学年活動を学期に1回以上実施した。	4	○ 予定どおり進めることができた。ソーシャルスキルトレーニングはいろいろな事例が利用できるもので、今後も継続していくとよいと思う。 ○ 生徒による学年活動も各学期1回実施することができた。 ○ どちらの取り組みも実施にかかる時間確保が課題と感じる。	1 回生の人間関係づくりには、今後も引き続き特に力を入れてもらいたい。	A	
			3 ソーシャルスキルトレーニングを年間8回以上かつ生徒による学年活動を学期に1回以上実施した。					
			2 ソーシャルスキルトレーニングを年間8回以上または生徒による学年活動を学期に1回以上実施した。					
			1 ソーシャルスキルトレーニングを年間8回以上実施または生徒による学年活動を学期に1回以上実施のどちらでもできなかった。					
2 回生	学習指導	基礎・基本の定着と発展的な学力を身につけるための学習習慣の確立	自主学習ノートや朝学の取組による主体的な学習サイクルを確立する。	4 生徒の9割以上が、質が高く、確実な課題の提出ができた。	4	○ 自主学習ノートや朝学に取り組むことにより、主体的に学習に取り組もうとする意識が高まった。 ○ 模擬試験等の結果を見ると、一定の成果はあがっている。これからは、発展的な内容に取り組ませたい。	朝学を実施するなど自己学習力の伸長が図られている。	A
				3 生徒の8割以上が、質が高く、確実な課題の提出ができた。				
				2 生徒の7割以上が、質が高く、確実な課題の提出ができた。				
				1 質が高く確実な課題の提出ができた生徒が7割未満であった。				
生活指導	一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。	4 生徒の9割以上が、活動に対して、充実感を感じている。	4	○ 生徒自ら企画・運営した活動に対して熱心に取り組む、充実感を感じた。学年のまとまりを強めることができた。 ○ 学級活動や委員会活動においても各自が責任をもって活動することができ、集団に貢献しようとする意識が高まった。	生徒は学校行事等に意欲的に取り組んでいると感じられる。	A	
			3 生徒の8割以上が、活動に対して、充実感を感じている。					
			2 生徒の7割以上が、活動に対して、充実感を感じている。					
			1 活動に対して充実感を感じている生徒が7割未満であった。					
3 回生	学習指導	自己学習能力の伸張と学習習慣の定着	朝学の取組により学習習慣を確立する。個に応じた補充学習を実施する。	4 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が8割以上であった。	4	○ ほとんどの生徒が以下の①～④のサイクルで朝学に取り組めた。また、小テストをその日のうちに教員が採点、振り返りと事後指導ができた。 8：15 着席・プリント配付 8：20～8：30 プリント学習 ①問題集で家庭学習 ②朝学（小テスト） ③朝の会でノート提出 ④当日の小テスト返却及び指導	朝学などの取組が生徒の学力向上に結び付いている。	A
				3 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が6割以上であった。				
				2 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が4割以上であった。				
				1 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が4割未満であった。				
生活指導	豊かな人間性を育み、主体的に動くことのできる態度の育成	生徒主体の委員会・学年集会活動を企画運営させ、相互に評価し、望ましい集団の育成を図る。	4 生徒の9割以上が、活動に対して、充実感を感じている。	4	○ 進路や学習意欲の向上のための集会活動を適宜実施した。 ○ 生徒で企画したもの、教師が企画した集会の中で、生徒が自ら考え行動できる力がついた。 ○ お互いの意見を尊重できる能力が向上した。	生徒は主体的に活動に取り組んでいると感じられる。	A	
			3 生徒の8割以上が、活動に対して、充実感を感じている。					
			2 生徒の7割以上が、活動に対して、充実感を感じている。					
			1 生徒の6割以上が、活動に対して、充実感を感じている。					
4 回生	学習指導	自己進路の探究	学年行事等を利用して、進路についての意識を深める。	4 自己の進路目標決定者の割合が90%以上であった。	4	○ 国公立大学進学希望者は約60%、海外進学希望者が5%程度いるなど、進学希望者の割合は増加しており、進路意識は向上している。 ○ 今後は、7%程度の進学未定者の早期決定を含めて、進路実現のための指導を図りたい。	高い目標を設定して、進学意識の高揚に一層努めてもらいたい。	A
				3 自己の進路目標決定者の割合が75%以上であった。				
				2 自己の進路目標決定者の割合が50%以上であった。				
				1 自己の進路目標決定者の割合が50%未満であった。				
生活指導	正しい判断力を身に付け、自ら行動する態度の育成	学校行事等で時間を厳守させる。	4 学校行事等の活動時間が守られていた。	3	○ 学校行事の集合や授業開始時間などはほとんど守られていた。 ○ 後期生としての自覚が高まり、各自が取るべき態度を考えて学校生活を送っている。	生徒は主体的に活動に取り組んでいると感じられる。	B	
			3 学校行事等の活動時間がほとんど守られていた。					
			2 学校行事等の活動時間を守れないことが多くみられた。					
			1 学校行事等の活動時間を守る態度が身に付かなかった。					
5 回生	学習指導	進路意識の高揚	卒業研究に向けての活動を充実させる。	4 自己の進路に関わる書籍を6冊以上読んだ。	3	○ 海峡学等を利用し、自己の進路に関わる書籍を数多く読むことで進路意識の高揚が図った。 ○ 希望者対象の模擬試験の受験人数は72人となり、進路実現のための行動につながっている。	大学等ゼミ訪問をはじめ、海峡学における工夫した取組が生徒の進路意識の高揚に結び付いている。	A
				3 自己の進路に関わる書籍を5冊以上読んだ。				
				2 自己の進路に関わる書籍を4冊以上読んだ。				
				1 読んだ自己の進路に関わる書籍が4冊未満であった。				
生活指導	規範意識の醸成	提出物の締め切りや集合時間を厳守させる。	4 締め切りや集合時間が守られていた。	3	○ ホームルーム活動等で指導を繰り返すことにより、提出期限や集合時間への意識が高まった。 ○ 集合時の態度も良く、規範意識の高まりもみられる。	学校生活全般の指導を通して、今後も引き続き、規範意識の高揚に努めてもらいたい。	B	
			3 締め切りや集合時間がほとんど守られていた。					
			2 締め切りや集合時間を守れないことが多く見られた。					
			1 締め切りや集合時間を守る態度が身に付かなかった。					
6 回生	学習指導	進路実現	チーム別対策により進路別指導を充実させる。	4 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）への決定率80%以上であった。	4	○ チューター、学年主任合わせて年間5回程度の個人面談を行うとともに、できる限りの学力向上の取組を行い、年間通じて進路意識と学力の向上を図った。 ○ 志望進路種別への決定率は96%であった。	組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路の決定率の向上につながっている。	A
				3 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）への決定率70%以上であった。				
				2 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）への決定率60%以上であった。				
				1 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）への決定率60%未満であった。				
生活指導	人間力育成	進路実現に向けた姿勢を指導する中で、自制心とやり抜く力を育成する。	4 ほとんどの生徒が、最後の機会まで自分の進路実現に向けて努力し続ける。	4	○ 進学志望者であれば中・後期日程まで、就職志望者であれば第1志望から第3志望程度まで、精一杯出願するよう指導した。 ○ ほとんどの生徒が、自分の出願先に対して、最後まで粘り強く努力し続け、多くの者が進路実現を果たした。	組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路実現に向けた努力を導くことができているように感じられる。	A	
			3 半数程度の生徒が、最後の機会まで自分の進路実現に向けて努力し続ける。					
			2 一部の生徒が、最後の機会まで自分の進路実現に向けて努力し続ける。					
			1 ほとんどの生徒が、最後の機会まで自分の進路実現に向けて努力し続けることができない。					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

(1) 確かな学力の保証

- 一昨年度から学力面のデータ分析を行い、朝学の充実などに取り組んだ結果、特に前期課程において如実な学力向上がみられた。今後とも一層学力向上に取り組むたい。
- 次期学習指導要領に基づいた教育課程の編成を完成する。
 - ・次期学習指導要領に対応した新教育課程の研究に全教科で取り組み、骨子については編成を終えた。
 - さらに、新大学入試制度についても研究を深め、より効果的な教育課程の編成に努めたい。
- 各学年で朝学の取組を充実させるとともに、授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
 - ・朝学の取組を充実した結果、国公立大学に合格する可能性を持つ成績の生徒数が前期課程の8割程度に達した。
 - ・授業以外の学習時間については、生徒・保護者の約半数、教員の7割が不足していると感じている。今後の大きな課題である。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。
 - ・本校主催の英語学習セミナーに加え、民間業者による同セミナーの新規実施など、授業以外での英語教育にも積極的に取り組んだ。
 - ・平成29年度入学生から、4年生時での14日間カナダ語学研修に変更し、より効果的な英語教育を計画している。
- 寮のWeb環境の整備を行い、寮での自学自習を充実させる。
 - ・インターネットを使った学習ができる環境を整えることができた。
 - 寮での自学自習が効果的なものとなるよう、今後も引き続き指導をしていく必要がある。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 一人ひとりに対応した適切な指導により、就職希望者6名は公務員4名を含め完全希望実現、進学希望者102名は97人が希望を実現した。
- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。
 - ・1回生で下関市立大学訪問、2回生で山口東京理科大学訪問・地元の最先端工場見学、3回生で山口大学本学・工学部訪問、4回生で志望大学オープンキャンパス参加、5回生で研究分野別大学ゼミ訪問を実施し、生徒の明確な進路意識の醸成に努めていく。
- 各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。
 - ・各学年の進路検討会で模擬試験結果などを分析し、適切な対応をした結果、模試成績につながった。
- 昨年度整理した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。
 - ・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み、大きな成果をあげた。
 - ・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされ、進学実績が大きく向上した。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。
- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
 - ・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができ
 - ・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
 - ・学校行事や学年行事で、生徒が主体的に活動する場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
 - ・ペットボトルキャップ・プルタブなどの収集ボランティア、歳末たすけあい募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加した。今後も多くの生徒が参加できるよう、一層の充実を図っていく。
- 留学に関する校内の規定を整理し、短期留学を含めた留学を促進する。
 - ・留学に関する校内の規定を整理し、留学しやすい環境を整えた。
 - ・海外留学について啓発活動に取り組み、留学を促進した結果、「トビタテ！留学JAPAN」への参加など、留学する生徒が増加した。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組んでいく。
- 教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
 - ・各教科で定期的・計画的に研修会を開催し、教科指導力向上に励んだ。
 - ・一人一研究授業については、今後一層の工夫・充実が求められる。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、教職員の指導力の一層の向上を図る。
 - ・計画的に研修を実施した。引き続き教員の指導力の一層の向上を図っていく。
- 校務分掌業務を精選し、業務改善を図ることで、組織全体の活性化を図る。
 - ・今後の教員定数減を見据えて、大幅な校務分掌の改編を行った。
 - ・業務の精選については、引き続き研究を深め、一層の業務改善を図る必要がある。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 志願倍率が1.7倍に増加するとともに、辞退者が大きく減少した。
- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。
 - ・「飛翔プロジェクト」により、児童・保護者に本校の教育活動の理解が深まり、志願倍率の向上につながった。
- 小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。
 - ・本校での教育活動体験により本校への関心・興味が一層強まり、志願倍率の向上につながった。

7 次年度への改善策

次年度は、これまで構築した中高一貫教育システムを円滑に運営することで、地域や大学との連携を一層深めながら「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 次期学習指導要領に基づき新大学入試制度に対応した教育課程の編成を完成させる。
- 授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実に努める。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等を円滑に実施する。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学制度について啓発活動の充実に努め、生徒の参加を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実に努める。
- 小学生を対象とした、おいの山サイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実に努める。